

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200768		
法人名	社会福祉法人 まりあ		
事業所名	グループホーム まりあ 夢		
所在地	宮崎県都城市志比田町9541番地		
自己評価作成日	平成30年5月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	平成30年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ご利用者、ご家族の要望・相談に乗りながら、職員全員で対応工夫を行っています。外出・外食等の楽しみをつくったり、畑の野菜を収穫し料理と一緒に作ったりしながら過ごしています。3ユニットの交流もあり、協力体制が強みでもあります②医療面では、訪問看護ステーションとの連携をとりながら、ご利用者・ご家族に安心した生活が送れるように、支援しています。③認知症ケアに対して認知症委員を活用しながら、認知症の事をより深く学び、ケア向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の一角に系列法人である特別養護老人ホーム、デイサービス、小規模多機能事業所とともに3ユニットのグループホームが建てられている。敷地が広く、木々や季節の花が庭の彩りとなっている。木陰ができる芝生の広場が開放的な印象である。各ユニットでは入居者の個別性を重視した取り組みを行っている。入居者の状況を一律にとらえず、職員間での情報交換を行い、入居者にとってよい状態にしていくための支援に取り組んでいる。3ユニット間の協力体制もとれており、夜間の対応や委員会活動など協力して行うことも多い。地域との関わりは地域支援課が中心となり、祭りでの出店や避難訓練の協力などこれまでの積み重ねた関係性を感じられる。法人全体で職員育成に取り組み、地域ケアや認知症ケアに対しての意識を高く掲げた実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が地域に出て、ご利用者の想いに寄り添いながら「夢を叶えよう」という理念を持ち、人事考課にも繋げて目標を持っている	事業所独自の理念を職員との話し合いのもと作成している。理念の一つである入居者の「夢をかなえよう」ということで、誕生月に好物の寿司を一緒に食べに行くなど、実践につなげる取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域へ日々のお買い物や、お祭りなどに参加しています。月一回の一斉清掃でまわり周辺のゴミ拾いを行っている	事業所内に地域支援課があり、地域での体操指導やクリスマスのプレゼント配達などを行っている。ボランティアや学校行事など外部からの訪問も多く、地域の祭りで出店をするなど地域に根差した活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域支援課を中心に、こけない体操等をおこなっている。学生の体験学習を受け入れながら、認知症の方との触れ合いをさせている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や訓練(勉強会)、日々の様子等の報告を行っている。そこで、ご家族の不安や疑問点などにお答えさせて頂き、サービスの向上に繋がられている。	会議で出された意見を関係機関に伝え、改善に繋げるよう働きかけを行った。しかし、会議参加者に地域住民や関係団体の方が少なく、幅広い意見の交換や外部の方たちへの周知までには至っていない。	培われた地域との関わりを活かし、より多くの方に会議に参加してもらうことで、事業所の取り組みへの理解や課題の検討を行い、サービス向上に繋げていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護について悩まれているご家族に、認知症ケアに関しての勉強会・活動の紹介を行っている。	市担当者とは日頃から密に報告や相談を行っている。運営推進会議での意見を伝え、改善を求めるよう働きかけをするなど、連携をとりながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠を行わない。音や鈴等で工夫を行っている。新人職員には業務の中で指導・説明を行っている	外出をしたい入居者にはさりげなく付き添うようにしている。ミーティングでの話し合いや勉強会を通しての共通理解をはかることで、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で、アンガーマネジメントなどの研修を行い、職員同士ケアの声掛けや工夫を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、他者へ伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、時間をかけて重要事項説明書及び契約書、重度化した場合の対応に係る指針の書類説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のご利用者・ご家族の発言等で聞かれた意見を記録に残して、他の職員にも周知し、共通の理解を行う。そして、ケアに反映していく	面会時に入居者の状況報告を兼ねて、意見や要望を聞くようにしている。また、面会簿の様式を見直し、ご意見欄を設けたところ意見があげられ、職員間で話し合いを行い、改善につながられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や主任会議、人事考課等で話を聞き、職員の意見を聞いた上で、業務に反映している	ユニット主任と管理者は年2回の個別面談を行っている。実践の中での悩みに対してアドバイスをされるなど、意見や要望があげやすい雰囲気がある。それらを法人の責任者に伝える仕組みも整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の目標が達成出来るように、研修に行ったり施設内での勉強会・部会等積極的に取り組んでいる。自主研修の回覧もつくり、自身の成長の手伝いを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課の目標が達成出来るように、研修に行ったり施設内での勉強会・部会等積極的に取り組んでいる。自主研修の回覧もつくり、自身の成長の手伝いを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で、情報交換や勉強会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後にセンター方式を活用し、情報収集を行い、御本人に寄り添ったケアプランをつくっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時の際に、ご家族の想いや要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に必ず、ご利用者本人の状況や環境等も踏まえて、どのようなサービスが必要かをご家族と一緒に考え、悩み、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の野菜を活用しながら、ご利用者と一緒に食事作りを行う。季節の物や行事食はアドバイスを頂いたりする		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に自宅へ帰られたり、外出・外食を行う事で、ご家族との絆を大切にしている。ご家族との写真を居室に飾ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からこれまでの本人の歴史について情報収集を行い、墓参りやなじみの人に触れ合い、その場所を大切にしている。	入居時に入居者の馴染みの人や場所の把握を行っている。また、法人内でこれまで交流のあった方たちに会いにいたり、手紙でのやりとりを楽しまれるなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人に合わせたテーブルの配置を考え、気の合いそうな方同士を隣の席に対応している。口論になられた時は職員が仲裁に入り対応を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行った後、四十九日にご家族へグ リフカードを送らせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人やご家族の思いをお聞きし出来る限り、御本人の気持ちを尊重出来る様に対応している	入居者の行動の意味を本人の言葉や職員間の情報から分析し、「なぜ」「どのようにしたら」と本人本位に検討し、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご本人のこれまでの生活歴や慣れ親しんだ環境などを把握しながら、ケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでのご本人の過ごし方を把握しながら、その日の体調に合わせてケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・計画作成担当者を中心として、認知症委員を活用しながら、御本人に沿った介護計画作成を行っている。ご家族との話し合いを行い要望等をお聞きし、プランに反映している	担当職員をはじめ計画作成担当者やケアマネジャーが中心に介護計画を作成している。カンファレンスには家族の参加もあり、定期的なモニタリングの実施により、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご利用者の気づきを記入し、特記なところは日誌に記入している。月1回のユニットMT等で職員同士ケアの意見や見直し・共通理解に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に沿えるように、他の事業所との行事に参加したり、特養喫茶・習字・フラワーアレンジメント等の教室に参加。また、外部のデイケアに行かれる方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーで買い物や、市役所に一緒に外出している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の要望で、皆さん主治医がバラバラである。ご相談に応じて、協力医療機関の先生に往診として相談し協力を頂いている。	入居者はそれぞれのかかりつけ医を持っている。受診は基本的に職員が対応しているが、家族の協力を得る事もある。適切な医療が受けられるよう、事前にかかりつけ医に情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年の1月より医師会の訪問看護スケジュールとの契約に伴い、施設の看護婦・介護職との連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が入院された時は、見舞いに行ったり、定期的にケースワーカーを通じて情報収集し、退院時スムーズな運びになるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで対応できる医療面の説明や看取りの際の注意点等を説明させて頂く。話し合いを密に行いご本人やご家族の希望に沿った看取りが出来る様に対応している。緊急時の流れの説明を行う	入居時に指針の説明を行っている。重度化や看取りの在り方を勉強会を通して、職員間で共有している。看取りの入居者がいる場合、医療との連携を図り、各ユニットとの協力体制をとりながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回南消防署でAEDと心肺蘇生の訓練を行っている。ご利用者で起りうる急変時の対応を実際訓練を行い、対応を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際にご利用者にも避難訓練に参加して頂いている。1年に1回は地域の方も含めて行っている。防災課を中心に活動している	避難訓練は年2回日中と夜間を想定し入居者参加のもと実施している。1回は地域の方が参加し、火災時の交通整理を担ってもらっている。地震に備えた居室環境の整備や保存食の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の性格や人格に合わせた、言葉かけの対応で行っている	人格の尊重やプライバシー確保に関して、職員全体の意識を高めるため、ユニット合同での認知症委員会で入居者の疑似体験を行っている。実施后感想を述べ合い、実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の目線でゆっくり話しかけ、耳を傾け自己決定出来るように言葉や雰囲気づくりを行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて、体調や気分に合わせてケアの仕方・声掛け等工夫を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容は月1回あるので、ご本人やご家族に確認して散髪される。髪の色を染めたい方は、介護職員の方で対応している。外出時は口紅を塗ったりしながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずをご利用者の方に盛り付けて頂いたり、包丁で野菜を切ったりしながら、一緒に楽しく食事作りしている	食事の準備、後片付けやおやつ作りなど入居者が出来るところを手伝っている。行事食の時には家族と一緒に食事をしたり、職員が握りずしをつくったり、定期的に外食を取り入れ、楽しい食事の支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人に合わせた食事形態や嚥下障害の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助を行う。必要な方は訪問歯科の依頼を行い専門の先生に協力を頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレまでの誘導や声掛けを行っている。排泄回数等もチェックし、異常時の変化に早期に気づく様に努めている	日中はトイレ使用を基本とし、入居者自身で使用しやすいようドアの工夫など自立に向けた支援を行っている。尿意の訴えがない入居者も定期的にトイレに座るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や坐薬等に頼らず、運動やマッサージ・ホットパックや食物繊維を食事に取り入れたり、乳製品を飲んで頂いたり、個々に合わせて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、本人の体調や希望に合わせて入浴を行っている。拒まれる方は、職員を替えたり、時間をずらして声掛けを行っている	入居者が入りたいタイミングで入浴ができ、週2~3回の入浴を確保している。拒否的な入居者には、無理強いせず、職員が連携しながら支援している。檜風呂であり、リラックスできる空間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも傾眠があらわれる時は、本人のベットや趣味室で休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回薬の数をホワイトボードで確認し、薬の変更があった場合は、ふせん等で職員同士共通認識出来るように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食事の盛り付け、ゴミ捨て・食事の号令等お一人お一人に合わせた役割を探して支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	少人数での外出・外食を行ったり、地区のお祭りに参加したりしている。	園庭の桜見やあやめやあじさいなど季節の花見のドライブなどを行っている。近所にある公園に出かけ、職員と一緒にすべり台をすべったり、その姿を見ながら楽しめる入居者もいて、楽しい時間を過ごすことができた。面会に訪れた家族も参加された。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人にお手紙が届いたら、お渡しし必要時は読んで差し上げ対応する。お一人携帯を持たれており、ご家族からかかって来た時、声掛けの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度は職員が目付の付く所にあり、業務中気掛けてエアコンの調整等を行う。季節のお花を飾ったり、玄関をその時期にあった工夫をしている	玄関に季節の飾りや催し物の案内が貼られ、メダカや金魚などが入居者の視界に入る位置に置かれている。出入口の開閉時のチャイムの音も静かな音楽である。ホールの日当たりもよく、テーブルや椅子の配置もそれぞれがくつろげるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者とホールでコミュニケーションをとられたり、仲が良い方だけで居室でお話されたりしながら過ごされる為、おやつ等を提供しゆったり過ごして頂ける様に提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファ等ご自宅でのなじみの物を取り入れながら、ご本人が落ち着ける空間づくりに努めている	洗面台に花が飾られ、壁のボードに家族の写真が貼られている。座りやすい椅子やソファはそれぞれの好みで持ち込まれている。明るい色のカバーやタオルをかけてあることで、居室のアクセントにもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」や「居室の表札」等ご本人自身が認識しやすい工夫をしている。		